

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2017年2月

主な出来事

- 1日、カリスマ的野党リーダーのエチエンヌ・チセケディ UDPS 党首(84歳)は、ブリュッセルの Sainte-Elizabeth 病院で死去した。
- 2日、バディバンガ首相はワシントンで開催された「National Prayer Breakfast」に出席し、トランプ大統領と数分間談話した。訪米中にはまた、ティラーソン国務長官、トマス＝グリーンフィールド国務次官補(アフリカ担当)に加え、米国からの投資を誘致するため、いくつかの投資家ミッションと会談した。
- 3日、中央コンゴ州キンペセで、Bundu Dia Kongo(BDK。同州を本拠地とする分離主義的宗教集団)メンバーが警察派出所を襲撃、約20名の死者が発生した模様。13日には、キンシャサ市 Ngiri-Ngiri 地区で、治安部隊がBDKに対する作戦を実施、銃撃により、2名以上の死者と多数の負傷者が発生、14日には、同市 Ngaliema 地区 のンセミ指導者の本宅で、再度、治安当局との間で衝突が発生、数名の死亡が確認された。
- 8日、メンデ政府報道官は、1日死去した「チ」党首の葬儀全般に係る費用の負担と、遺体と遺族、党関係者らの移動に対する手続き支援を行うと表明した。
- 19日、キンシャサ市リメテ地区で何者かがサンドミニク教会を襲撃し、祭壇や聖櫃などが破壊された。チセケディUDPS党首の死去を受け、UDPSの支持者の一部は、与野党間の調停を行ったカトリック教会に危害を与えると脅していた。
- 23日、コンゴ(民)国軍(FARDC)報道官は、北キブ州で旧 M23 兵士とコンゴ(民)国軍(FARDC)の交戦が発生しており、3日間で16名が死亡したと発表した。
- 24日コンゴ・カトリック司教会議(GENCO)はンショレ事務局長名で、チセケディ UDPS 党首が生前、カビラ大統領に宛てた書簡の存在に関する説明文を発表した。
- 28日、「チ」党首の葬儀に関連し、同党首の実弟であるムルンバ司教と、マルト・カサル未亡人の連名によるコミュニケで、「チ」党首の遺体をまずはゴンベ墓地に埋葬し、後日、廟(mausolee)の建地として指定される場所に埋葬することで合意したと発表、また、3月11日(土)に同党首の遺体をキンシャサに戻す予定であり、MONUSCO とコンゴ(民)国家警察(PNC)に対し、遺体の帰国時における UDPS 党員の安全を確保するよう要請した。

1. 内政

(1)チセケディ UDPS 党首が死去

- ・1日午後5時42分、カリスマ的野党リーダーのエチエンヌ・チセケディ UDPS 党首(84歳)は、ブリュッセルの Sainte-Elizabeth 病院で死去したと、チバラ UDPS 副幹事長が発表した。「チ」党首は検診のため、1月24日にキンシャサからブリュッセルに向けて出発していた。
- ・3日～5日、ブリュッセルで、「チ」党首の通夜が行われた。同通夜は一般の弔問客も受け付け、5日には「チ」党首の遺体が会場に安置された。
- ・8日、カブンド UDPS 幹事長は記者会見を行い、「チ」党首の遺体の帰国に関し、キンシャサ市中央に、民主主義の父として「チ」党首の遺体を永遠に保存する廟の建設と、葬儀全般を(バディバンガ内閣ではなく)新内閣が行い、その費用全額を国が負担することを要求した。
- ・11日から19日まで、UDPS は党主催の葬儀を行うとカブンド幹事長が発表した。11日は、UDPS 党員や野党党首らが UDPS 本部に集まって式典が行われ、12日から19日は記帳と礼拝

等が行われた。15日は UDPS の結党記念日でもある。

- ・28日、「チ」党首の葬儀に関連し、同党首の実弟であるムルンバ司教と、マルト・カサル未亡人の連名によるコミュニケで、「チ」党首の遺体をまずはゴンベ墓地に埋葬し、後日、廟(mausolee)の建立地として指定される場所に埋葬することで合意したと発表した。また、同党首の遺体を3月11日(土)にキンシャサに戻すことを考えていることから、MONUSCO とコンゴ(民)国家警察(PNC)に対し、遺体の帰国時における UDPS 党員の安全を確保するよう要請した。

(2)コンゴ(民)政府は故チセケディ UDPS 党首の葬儀全般にかかる費用の負担を表明

- ・8日、メンデ政府報道官は、1日死去した「チ」党首の葬儀全般に係る費用の負担と、遺体と遺族、党関係者らの移動に対する手続き支援を行うと表明した。
- ・10日、「チ」党首の遺体搬送にかかる協議のため、シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合大臣はブリュッセルに到着した。
- ・24日、キンシャサ特別州当局は州令により、「チ」党首の遺体の埋葬場所を、ゴンベ墓地の中央口と側面口の間にある500平米の区画と決定した。

(3)コンゴ(民)政府は選挙費用18億ドルの支出は困難と発表

- ・15日、カングディア予算大臣(国務大臣)が記者会見を行い、コンゴ(民)政府は、今年中に一連の選挙を実施するための費用18億ドルを支出するのは困難をとまなうと発表した。同大臣によると、2017年の全予算額が70億ドルを越すことは無理であり、独立国家選挙委員会(CENI)が要求する予算額(18億ドル)を支出することは、他の分野が犠牲となることを意味する(15日付 Radio Okapi)。同大臣は後日、選挙を実施しないとは言っていないと追加でコメントした。

(4)グラン・カサイにおける軍事行動ビデオ流出

- ・17日～18日の週末にかけ SNS 上で、グラン・カサイにおいて、コンゴ(民)国軍(FARDC)がンサプの信奉者に対し軍事行動を行う様子のビデオ(昨年に撮影されたもの)がシェアされた。野党プラットフォーム「Rassemblement」が FARDC を非難するコミュニケを発出したのに対し、メンデ政府報道官は、同作戦における FARDC による過度な武力使用の問題は、すでに昨年司法の手にゆだねられていると反論した(19日付 AFP)。
- ・19日、グラン・カサイ選出の議員が、同地域で発生している暴力的状況について、当局による危機管理の悪さと、軍事力に頼った解決を非難したのに対し、ラマザニ・シャダリ副首相兼内務・治安大臣は、同地域における持続的平和のために政治的、慣習的、人道的な支援を行い、(カムウイナ・ンサプの信奉者が)武器を放棄しない場合は、軍事行動を行うと報道陣に述べた(19日付 AFP)。

(5)野党の動向

カテベ ULD 党首が12年ぶりの帰国

- ・21日、カトゥンビ前カタンガ州知事の異母兄弟で Union des Liberaux Democratie(ULD)党首のラファエル・カテベ氏が12年ぶりに帰国した。17日には、野党連合「Alternance pour la Republic (AR、共和国のための政権交代)」が、カテベ党首の資格を一時停止していた。

(6)選挙・政治対話の動向

チセケディ UDPS 党首からカビラ大統領に宛てた書簡の存在を CENCO が説明

- ・24日、コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)はンショレ新事務局長名で、懸案となっている12月31日合意に基づく新首相指名に関し、チセケディ UDPS 党首が生前、カビラ大統領に宛てた書簡の存在に関する説明文を発表した。これによると、1月17日、ルンビ党首と(UDPS の)チルンブ司祭は、「チ」党首から大統領に宛てた書簡を CENCO 事務所に提出、2月20日、「Rassemblement」からのゴーサインを受け、CENCO は大統領に同書簡を手交したが、大統領は来たるべき賢人委員会の委員長が、候補者のリストを提出すべきと見なした。

2. 外交

(1) バディバンガ首相がワシントンでの「National Prayer Breakfast」に出席

- ・2日、バディバンガ首相はワシントンで開催された「National Prayer Breakfast」に出席し、トランプ大統領と数分間談話した(6日付 RFI)。
- ・今回の訪米ではまた、ティラーソン国務長官、トマス＝グリーンフィールド国務次官補(アフリカ担当)に加え、米国からの投資を誘致するため、いくつかの投資家ミッションと会談した(9日付 ACP)。

(2) レバノン外務・移民相がキンシャサを訪問

- ・6日、前日からキンシャサを訪れているバシール・レバノン外務・移民相は、シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合大臣と会談した。同大臣はまた、アウン大統領からの親書を手渡すため、カビラ大統領と面会した。レバノン代表団とコンゴ(民)政府との協議は、主に2国間協力について行われた(6日付コンゴ(民)外務省ツイッター)。
- ・同外相はまた、コンゴ(民)からの留学生に対し、5年間で50万ドルの支援を行うと表明した。約50名のコンゴ人学生が対象となる(7日付 Le Phare 紙)。

(3) シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合大臣がベルギーを訪問

- ・10日、シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合大臣は、レンデルス・ベルギー副首相兼外務大臣の招待を受け、就任後初となるアフリカ以外への外遊を行った。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1) 北キブ州でマイマイ・マゼンベが市民25名を殺害

- ・18日早朝、北キブ州 Kyaghala 村で、マイマイ・マゼンベ(ナンデ族系の武装集団)が村を襲撃し、住民25名(全員フツ族)を殺害した(18日付 AFP)。

(2) 旧 M23 兵士とコンゴ(民)国軍の交戦

- ・23日、コンゴ(民)国軍(FARDC)報道官は、北キブ州で旧 M23 兵士とコンゴ(民)国軍(FARDC)の交戦が発生しており、3日間で16名が死亡、旧 M23兵士5名が捕捉、58名が投降したと発表した(23日付 AFP)。

4. その他地域情勢

(1) BDK と治安部隊の衝突 (中央コンゴ州キンペセ、キンシャサ)

- ・3日、中央コンゴ州キンペセで、Bundu Dia Kongo(BDK)。同州を本拠地とする分離主義的宗教集団)メンバーが警察派出所を襲撃、約20名の死者が発生した模様。1月24日にも、同メンバーが治安部隊と衝突し、5名が死亡する事態が発生していた(4日付 AFP)。
- ・13日、治安当局はキンシャサ市 Ngiri-Ngiri 地区で、BDK に対する作戦を実施、銃撃により、2名以上の死者と多数の負傷者が発生した模様(14日付 RFI)。
- ・14日、キンシャサ市 Ngaliema 地区 Joli Park にあるンセミ指導者の本宅で、治安当局との間で衝突が発生、数名の死亡が確認された(14日付 RFI)。

(2) カサイ州3州でのンサブ信奉の民兵集団による攻撃に関し MONUSCO がコミュニケを発表

- ・11日、MONUSCO は、コンゴ(民)中部カサイ3州で継続する、伝統的酋長のカムウィナ・ンサブを信奉する民兵集団による攻撃等に関し、子ども兵士の徴兵と使用を含む、国家の象徴や当局に対する残忍な攻撃、また、これに対応するためのコンゴ(民)国軍(FARDC)による過度な兵力の使用を憂慮するとするコミュニケを発出した。

5. その他

(1) AU-UN-EU-OIF によるコンゴ(民)に関する共同宣言

・16日、アフリカ連合、国連、欧州連合、仏語圏(フランコフォニー)国際機関(OIF)は、コンゴ(民)に関する共同宣言を発表、12月31日合意における与野党すべての関係者に対し、誠意を尽くし、現在行われている交渉を速やかにまとめる努力を倍加させるよう求めた。

(2) キンシャサでカトリック教会が襲撃される

・19日、キンシャサ市リメテ地区で何者かがサントミニク教会を襲撃し、祭壇や聖櫃などが破壊された。チセケディ UDPS 党首の死去を受け、UDPS の支持者の一部は、与野党間の調停を行ったカトリック教会に危害を与えると脅していた(19日付 AFP)。

(3) ローマ法王がコンゴ(民)における暴力の被害者に祈り

19日、ローマ法王は日曜礼拝で、特にコンゴ(民)中央カサイ州をはじめとする、アフリカと世界各国における暴力の被害者への祈りを捧げた。ローマ法王はまた、特に子ども兵士の使用を非難、コンゴ(民)当局に対し、国内の政治状況を早急に安定化させるよう求めた。